

所属・資格 地理学科・教授

申請者氏名 佐野 充

研究課題	地域再生における地域学・地方学の実践についての研究	
報	研究目的 および 研究概要	<p>地域学・地方学は、現代において地域再生の推進手段として位置づけられている。共時態における他地域との変化や差異に留意しながら、対象地域の特色を他地域と比較的考察しながら、地域の文化・民族・政治・経済・産業・社会などについて総合的に研究する地域研究に属する学問分野である。国家規模の地域を対象として、文化・文明を幅広く研究する学問ともいえる。</p> <p>日本では、地域の共時態の解明・分析を主たる研究目的とする地域学(regionology)として、富士学・京都学・鎌倉学・長崎学・山口学などが、総括的学際的視点と実践的調査に基づく、地域再生のための基礎的資料の提供、活性化推進方策の指向を目指す研究が進められている。</p> <p>中国では、対象地域の歴史的変遷を追及する通時態を研究主体とする地方学が、北京学・青海学などとして、物語能力(narrative competence)による主体的なアプローチなどによって、日常生活域から共時態・通時態のある生活圏までを対象に進められている。</p> <p>日中で進められている地域学・地方学は、ともに地域科学(regional science)の域にあることから、ともに理論・実践において地域の特殊性・独自性を明らかにし、地域の更なる発展のために貢献する「地方発展支援研究」であると認識している。</p> <p>地方の再生・更なる開発を底辺で支える地域研究としての実践状況の実態を明らかにする。</p>
告 の 概 要	研究 の 結果	<p>日中で展開されている地域学・地方学は、地域づくりのための郷土学、地元発展策のための地域研究的な色彩が強いものが多い。実証的に地域学・地方学が展開されている地域での地域づくりの実態をつかむために事例研究を実施した。</p> <p>富士山をキーワードに、富士山と周辺の地域環境のみならず“富士”の文学・歴史・芸術・文化・地域開発・観光などを広域総合的に研究する富士学を採り上げた。富士山を取り巻く静岡・山梨両県では、地域づくり・地域再生の取り組みを富士山観光に視点を置いて展開している。この展開における富士学が郷土学・地域調査研究的科学に位置づけられて、地域づくり・地域再生を底支えする基盤科学となっている。</p> <p>世界文化遺産になった富士山は、国内外からの観光客を集めている。インバウンド観光による訪日外国人観光客は、2,900万人(2017年)を数えるまでになり、提供する地域観光の質の向上が求められている。歴史・文化面の学術的成果に基づく観光情報の提供のために富士学の重要性が認識されている。訪日外国人観光客の富士山周辺観光ポイントへの訪問実態を分析することにより、インバウンド観光では、物見遊山のルート観光から地域の文化・歴史・生活の体現的な滞在型観光への要望が急増していることが明らかになった。</p> <p>新たに観光施設や観光資源を開発する必要はなく、現存する地元地域資源を有効に活用し、体現的な滞在型観光に合致する観光を提供することが、観光を基軸にした地域再生に重要であることが明らかになった。</p>
	研究 の 考 察 ・ 反 省	<p>本年度は、2017年度に実施した中国での現地調査結果と中日地方学研究中心(北京)で開催したシンポジウム結果を基に、中国全土的な情報整理と日本全国に展開されている地域学・地方学の概要を整理した。</p> <p>現在、日中で展開されている地域学・地方学は、地域づくりのための郷土学、地元発展策のための地域科学的な色彩が強いものが多い。そこで、各地に展開している地域づくりの実態をつかむための事例研究を実施した。富士山をキーワードに、富士山と周辺の地域環境のみならず“富士”の文学・歴史・芸術・文化・地域開発・観光などを広域総合的に研究する富士学を対象として、富士学と地域学・地方学における空間認識、学問的展開方式を調査・分析することによって、ともに地域の特殊性・独自性に基づく、地域再生・地域創生を指向している科学であることを確認できた。</p> <p>ただし、今回の分析には、各地域・地方に内在しているであろう地政的・社会的風土を加味</p>

		<p>していない。 あらためて、地元・生活圏における政治的域内活動，経済的域外交流の視点を入れた地域空間調査実施の必要性を感じている。</p>
<p>研究発表 学会名 発表テーマ 年月日／場所</p> <p>研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者</p>		<p>※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。</p> <p>研究発表： 佐野 充(2018): 富士学会 2018 年度春季学術大会, 「富士学を地域学・地方学として捉える」, 2018 年 6 月 2 日/日本大学文理学部オーバルホール. 佐野 充(2018): (コーディネーター・パネリスト) 富士学会 2018 年度春季学術大会『富士学と地域学・地方学』, シンポジウム『富士学を現代の地域学・地方学に位置づける』, 2018 年 6 月 2 日/日本大学文理学部オーバルホール.</p> <p>研究成果物： 佐野 充(2018): 「富士山周辺のロコミインバウンドの実態と地元認識」, 富士学会発表要旨集, 20 号, 17-19, 2018 年 10 月 25 日, 富士学会.</p>